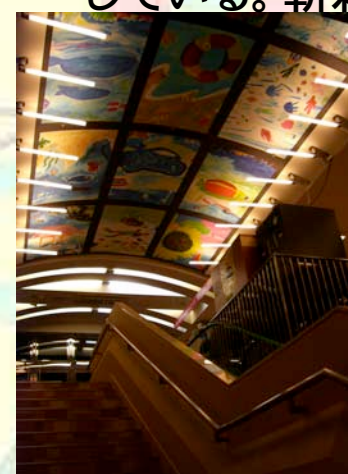


子供の絵の世界

井上ゼミ 舘野永子

まちなかの子供の絵

まちにある絵はいろんな形で表現されている。
子供たちの絵を見かけるとつい微笑んでしまう。
子供たちの絵は誰にも表現できない、色使いや描き方を
している。斬新なデザインである。



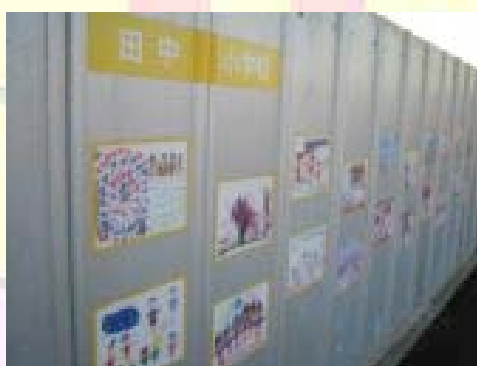
スーパー -西永福-

スーパー内のエスカレーターの
天井に子供の絵が大きく貼って
ある。スーパーという日常の中に
あると、ふとしたときにかわいい
子供の絵が入り込んでくるから良い。



ショコラ

ショコラのショップ「リシャール」で
出している子供の絵がプリントされた
ショコラ。見ているだけで楽しく
なる。ショコラと子供の絵を組み合わ
せる斬新な発想。



工事現場

工事現場の安全フェンスに貼ってあ
る子供たちの絵。多くは現場の近く
の小学生たちの絵などが飾られてい
ることが多い。殺風景な風景にちょっ
としたギャラリーが生まれる。



昭和記念公園

昭和記念公園の中にあるベンチ。
立体のものに直接絵を描いた
かわいらしいベンチ。形はシンプル
なのに、子供の絵が合わさると
かわいく、楽しいデザインになる。

街の中で見つけた子供たちの絵は見るだけで微笑み、楽しい気持ちになるのに、
街中で見る子供の絵はとても少ない。

もっと増やし、街中に広めることはできないのか。

コンセプト

街のなかの公園に子供たちが**絵を描く空間**を提案する。

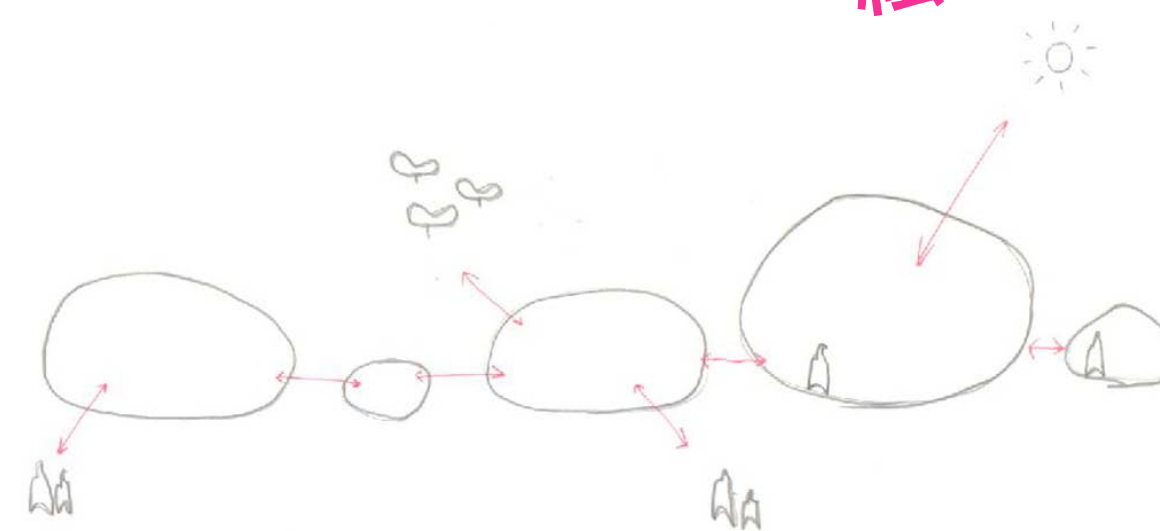
絵を描くことによって子供は**成長**し、**気持ちを伝え**、**コミュニケーション**をとり、
観察力が高まり、**想像力・発想力・表現力**がどんどん成長していく。そして、**優しい心**
豊かな心までもが生まれる。**生きている証**なのである。

子供の**絵**は、**ユーモア**で**天才的**。見ていると、おもわず**微笑み**、**優しい**・**平和**な
気持ちになる。型にはまらない、ほんとに伝えたいことが**ダイレクト**に届くのである。

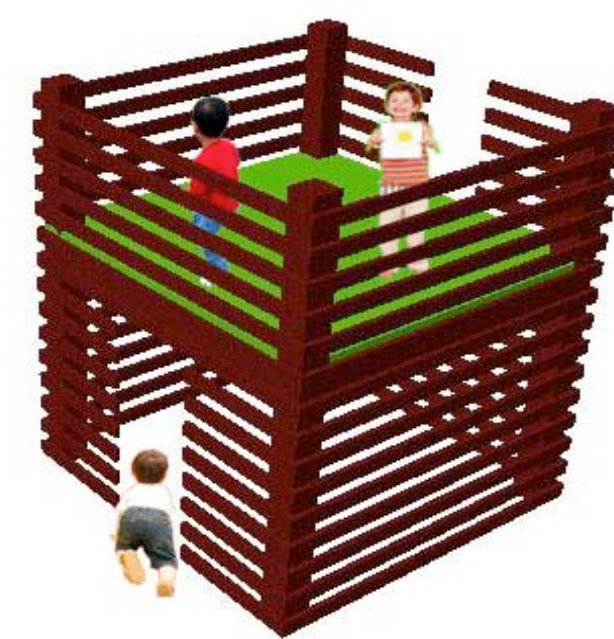
この純粹でこれからを生きる子供たちの絵から学ぶことはたくさんあるのではないのか。
現代の大人たちは子供の想いにもっと耳を傾けなければならない。
傾けられる場所を作らなければならない。

BOX

好きなBOXを選んで自分達だけの
絵を描く空間を作ろう!



絵を描く空間をBOXとして
いくつかに分けることで、外との
繋がりが多くなる。



BOX A

のぼりおり

のぼる+檻
高いところに登って絵を
描こう!下の檻を基地に
してもおもしろい。



BOX B

スカイボックス

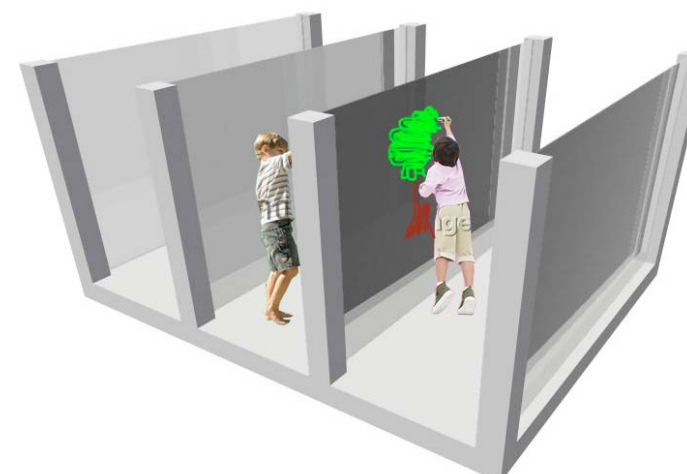
見上げる
真ん中の石に寝転んで空を
見上げて空の絵を描こう



BOX C

きばコトンネル

通り抜ける
風や光が通り抜ける。
絵のトンネルを作ろう。



BOX D

宙お絵かき

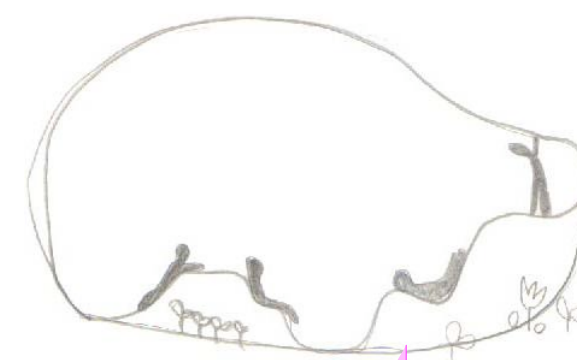
ガラスに描く
ガラス越しに見えた風景
と重ね合わせて絵を描こう
他の絵と重ね合わせてみるのも
おもしろい。



BOX E

くさベンチ

草に腰掛ける
芝生がない場所でも緑に
触れたり、寝転んだりしな
がら絵を描こう。



いろんな姿勢で絵を描いたら、
新しい感覚・視点を発見する。
発見は子供にとっていい刺激となる。



BOX G

くも

いろんな姿勢で
このぼこぼこした空間で、
いろんな姿勢をしながら絵を描こう。
新しいものが見えてくるかも!



BOX F

マイボックス

自分だけの空間
ここで、誰かに向けた秘密
の絵を描いてみては?
いろんな色があるので、自分
好きな色のBOXに入ろう。

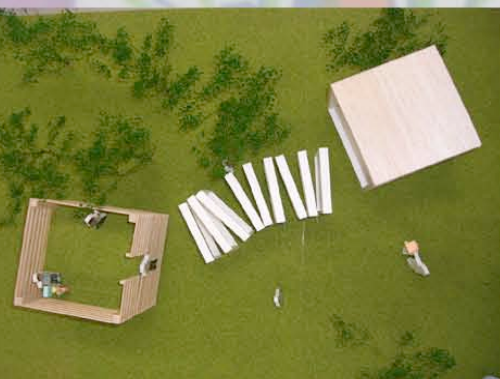


BOX H

くさ道

箱を歩く
箱と箱、箱からあらゆる場所を
つなぐ。この道に絵を飾って、
絵の道を作ろう。

自分たちだけの子供の絵の世界を作ろう!



例1 配置図

あるひとつの例

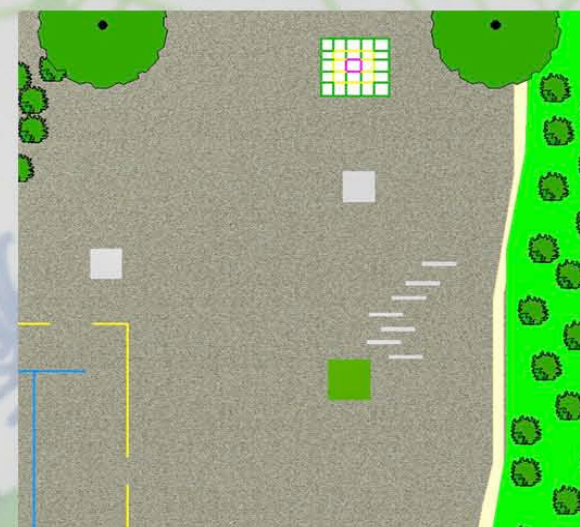
この配置にすると、箱と箱が繋がり、統一感が生まれる。自然が多い空間に入れると、自然を感じながら絵が描ける。



昭和記念公園 配置図

昭和記念公園

公園内の芝生スペース。老若男女さまざまな人が訪れるが、アスレチックのような空間が少ない。ここにBOXを置くことで、いろんな人たちが集まる空間をつくる。



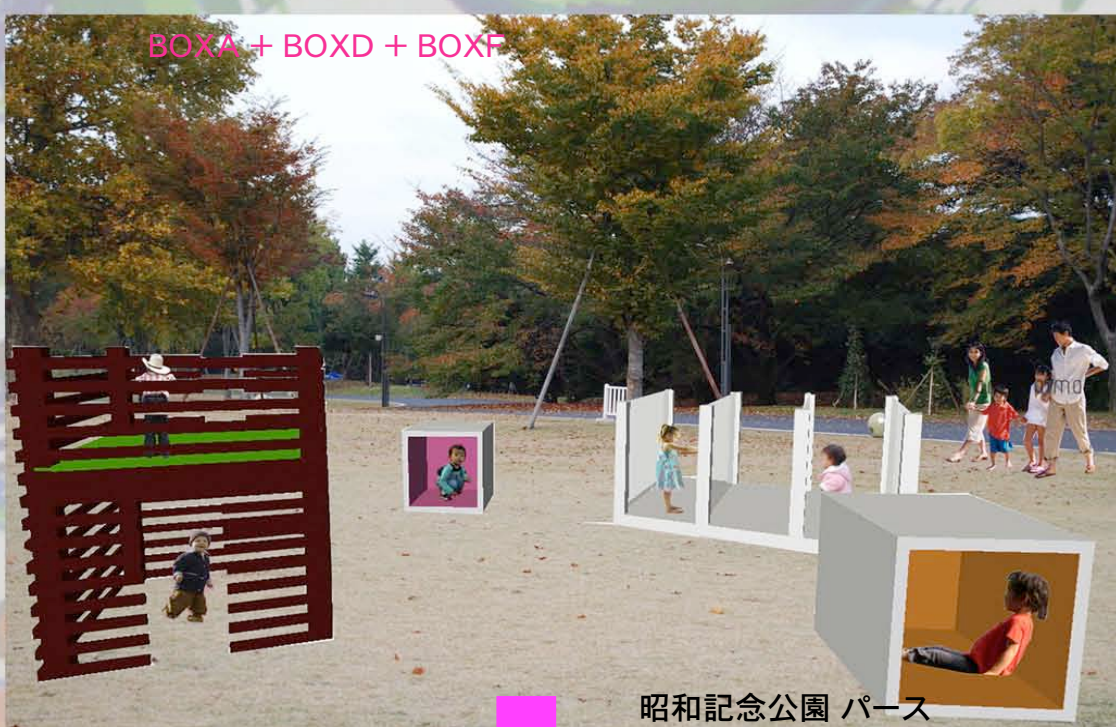
笹目公園 配置図

笹目公園

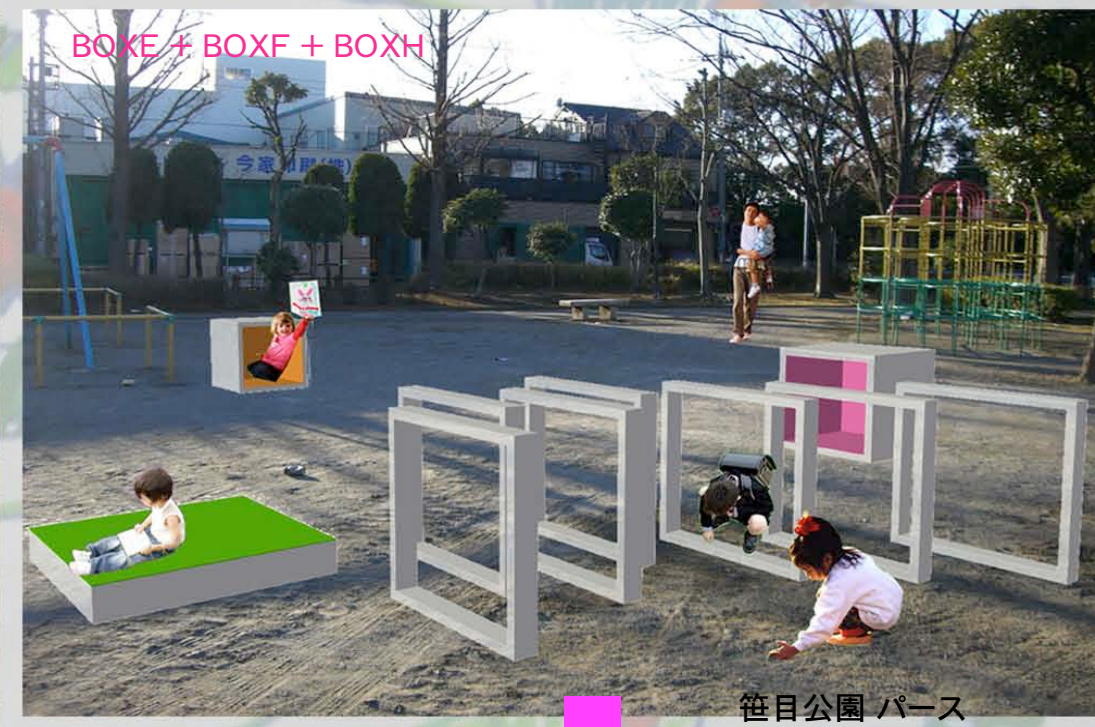
住宅の中によく見られる公園。遊具と一緒に絵を描く空間を入れる。日常に外で絵を描く楽しさを取り入れる。



例1 パース



昭和記念公園 パース



笹目公園 パース



このBOXを置くことにより

今一部の美術館や幼稚園でおこなっているワークショップのように、日常に外で子供たちが絵を自由におもいきり描く楽しさを見つける。たくさん絵が集まれば、子供たちだけでなく、大人までも集まり、コミュニケーションが生まれ、そこでは子供たちが生き生き育っていく。

